



高花平だより

2017. 4. 18
第 2 号

四日市市立高花平小学校

新学期が始まって10日が過ぎました。4月12日(水)には「1年生を迎える会」を行いました。6年生と手をつないで入場した1年生。2年生からペンダントをプレゼントされ、みんなで〇×クイズなどをして楽しく過ごしました。緊張が続いていた1年生も、ちょっぴり安心してくれたのではないのでしょうか。朝の集団登校では、上級生が1年生と手をつないで歩いたり、何かと気にかけていっしょに歩いたり、やさしい心遣いが伝わってくる登校風景が見られます。高花っ子は思いやりのある子が多いなあと感じています。



学校は勉強するところ

(その1)「〇年〇組の誰々です。体育館のカギをとりにきました。」

職員室の入り口で、子どもたちが少し緊張した声で職員室にいる先生に向かって声をかけます。「職員室にあるカギを借りに来たり返したりするときは、学年・クラス・名前・理由をはっきり言います」というのが「高花っ子のやくそく」になっているのです。緊張して話すのも貴重な経験です。また、こういう経験を通して、子どもたちは社会に出るための初歩的な“礼儀”を学んでいるのです。

(その2)「授業中だから静かに移動します」・・・このような先生の指示をよく守って、子どもたちは一言もしゃべらずに図書室などの特別教室へ移動しています。驚くほどきちんとできています。そういえば、廊下を走る子もあまり見かけません。ルールを守れる子がたくさんいて感心させられます。



(その3) 授業の様子を見ると、子どもたちは真っすぐに先生のほうを見て話を聞いています。これもまた高花っ子のすごいところだと思っています。先生の話を聞けない子は、友だちの話も聞けません。学習は、一人でじっくり考える力をつけるとともに、友だちの考えを聞いて自分の考えを深めたり、友だちと話し合いながら解決方法を探求したりする力をつけることが大切です。これから、友だち同士で話し合う、考えあう力をつけようとするとき、基本になるのは今の聞く態度だと思いま

す。

避難訓練

4月14日(金)、地震が発生し、その後家庭科室から出火したという想定で避難訓練を行いました。避難する態度に驚きました。静かに、整然と避難ができているではありませんか。きちんとするのは当たり前かもしれませんが、この「当たり前」がなかなかできないのです。しかし、本校の子どもたちは、すでに1学期のはじめからできています。この素直さが“高花っ子”の最大の長所といえるのかもしれません。

運動場に集合したときに、①放送をよく聞いて、どこから火が出たのか知ってから避難すること ②火事で危険なのは「けむり」なので、けむりを吸わないようにハンカチで口を押さえたり、姿勢を低くしたりして避難すること などを話しましたが、私のほうを見て、最後まで黙って聞くことができていました。